

特集「インタラクションの基盤技術，デザインおよび応用」の編集にあたって

青 木 恒^{†1}

情報処理技術の発展は日進月歩であり，効率性や利便性とどまらず，新しいコミュニケーションやエンタテインメント，表現など，人間生活そのものを豊かにする価値を提供し続けている。「インタラクション」とは，そうした「情報の世界」と「人間」とを結び付ける最前線の，かつ，多様な技術の融合からなる研究分野である。

ヒューマンコンピュータインタラクション研究会（HCI），グループウェアとネットワークサービス研究会（GN），ユビキタスコンピューティングシステム研究会（UBI）の3研究会が主催するシンポジウム「インタラクション」は2009年に13回目を迎えたが，近年は毎回600人を超える参加者を得て活発な議論がなされていることは，この研究分野の重要性と広がり，将来性と活発さを裏付ける証左であろう。

この分野の研究は，人間行動の洞察と実験実証，デバイスの発展にともなう先進的モダリティの提案，計算装置の性能向上と手法の創意工夫とを両輪とする高速・軽量化，そして，それらを活用した情報との関わりかたについての新発想と考察などを主題とする。この特質は，めまぐるしい進歩と発展に遅滞なく公表するとともに，見識，叡智として広くこの分野に関心を寄せる人々の共有財産とすることでいっそう活きる。本特集を企画した趣旨はここにある。

本特集ではシンポジウム「インタラクション2009」での活発な議論を経た研究だけでなく，シンポジウムへの投稿・採録とは無関係に広く同分野における取り組みを論文募集し，41件もの投稿を得ることができた。特集号編集委員会は研究分野の裾野の広さを熟慮して，各専門分野にいずれも広く深い見識を持つ方々によって組織した。第1回特集号編集委員会を2009年7月，第2回を同10月に開催し，多角的かつきわめて慎重な議論を繰り返した結果，最終的に17件を採録とした。

た結果，最終的に17件を採録とした。

採録された論文は，いずれも提案，論理，考察において読者に知見と着想を与えるレベルに達していると判定したものである。特集全体は非常にバラエティに富んだ論文によって構成されており，紙面の都合上，採録論文個別の要素技術をここに例示することさえ不可能なほど多岐にわたる。これこそ当分野が関わる研究課題の広さと発展の速さを端的に表象しているといえるだろう。残念ながら不採録となった論文の中には，研究方針の修正や追実験，持論を盤石にする十分な論拠の提示があれば，再投稿時の採録が期待できるものも多い。さらに議論を重ねて再投稿いただき，近い将来，誌上で拝見できることを強く望む。

インタラクションにおける研究の議論もまたインタラクションである。投稿いただいた著者各位，編集に尽力いただいた幹事，編集委員，査読者各位には，並々ならぬ努力に心から敬意を表すとともに，協働して研究を研磨し，意義ある論文を読者に届けようと真剣に議論いただいたことに深く感謝したい。最後になるが，当特集号が「インタラクション」という研究分野における道標の1つとなり，次なる発想への鼓舞となることを切に願う。

「インタラクションの基盤技術，デザインおよび応用」特集号編集委員会

- 編集長
青木 恒（東芝）
- 幹事
戸田真志（公立はこだて未来大学），福地健太郎（科学技術振興機構），
迎山和司（公立はこだて未来大学）
- 編集委員（五十音順）
秋田純一（金沢大学），市村 哲（東京工科大学），井上智雄（筑波大学），
今井倫太（慶應義塾大学），江渡浩一郎（産業技術総合研究所），
加藤直樹（東京学芸大学），亀田能成（筑波大学），河野恭之（関西学院大学），
後藤真孝（産業技術総合研究所），志築文太郎（筑波大学），寺田 努（神戸大学），
苗村 健（東京大学），中西英之（大阪大学），中村聡史（京都大学），
西本一志（北陸先端科学技術大学院大学），福本雅朗（NTTドコモ），
藤波香織（東京農工大学），細部博史（国立情報学研究所），
三浦元喜（北陸先端科学技術大学院大学），水口 充（京都産業大学），
宮下芳明（明治大学）

^{†1} 株式会社東芝
Toshiba Corporation